島根県公立小中学校
事務職員研究会
会　長　：　青　山　悦　子
（松江市立川津小学校）
編　集　：　情　報　部
VOL.67　2019.11.22（記念号）
発行責任者　　蘿 恵（大田第一中学校）
島事研ホームページ
http://www.oh-net.com/~kenjiken/

爽 SOU

【　目　次　】

- 「爽・第 50 回大会記念号 発刊に寄せて」(会長)
- 寄稿
  1982～1989 年度　会長　石倉　始
  1990～2009 年度　会長　立脇　渉
  2010～2011 年度　会長　林　由里
  2012～2015 年度　会長　鎌田陽子
- 寄稿　現職事務職員 12 名
- まんが「しまじぃとけんくん」
- 編集後記

「爽・第５０回大会記念号　発刊に寄せて」

会長　青山　悦子

１９７０年（昭和４５年）８月「望ましい学校事務職員のあり方を考えよう」を大会テーマとして「第１回島根県公立小中学校事務職員研究大会」が松江市で開催され，歳月を経て，今年度第５０回を迎えることになりました。

まずは，これまで本会の活動をけん引してこられた諸先輩方のご尽力と，様々な形で支えていただいた関係の皆様に心から感謝を申しあげます。

そこで，島事研では創立から半世紀という大きな節目に，記念大会を計画しました。記念すべき５０回大会に携わることができ，たいへんうれしく思い，役員一同，記念大会にふさわしいものにしたいと頑張ってきました。

また，このたび「爽・第５０回大会記念号」を発刊することといたしました。これまで島事研をけん引してこられた多くの先輩方には，研究大会でのトークセッションに参加していただきたいところでしたが，この「爽」にご寄稿いただき，その思いを伝えていただくことにしました。現役世代の方にも，これからの学校事務や島事研にかける思いを寄せていただいています。

振り返ってみますと，私は昭和５３年の「第９回松江大会」から研究大会に参加しています。当時珍しかった，複数配置校に勤務していた私は，複数配置に関する意見交換ができる分科会に参加したのを覚えています。その当時は学校事務職員の仕事とは何かを模索するといった時代でした。子どもたちのために仕事がしたいが，思うような仕事がさせてもらえない，職務内容が曖昧である，ICT 機器は未だ存在していないなど，５０年前と今とでは，学校事務職員を取り巻く環境は大きく様変わりしました。しかし，学校事務職員が教育に果たすべき役割は不変どころか，ますます重要になっています。

先日，記念大会準備のために県立図書館へ行ってきました。図書館には第１回大会からの研究集録が保管されています。その集録を撮影しながら，「文書に関する研究は長年続けられていること」や懐かしい方の名前を見つけ，あっという間に時間が過ぎてしまいました。そして，近年の研究集録・記録集も新たにお預けしてきました。また，何十年後かに記念大会を開かれるとき，あるいは興味のある方は是非，県立図書館へ行って，島事研・学校事務職員の歴史をひも解いてみてください。

会員の皆様には，この５０年の歴史を基盤とした「島根の未来を切り拓く子どもたちの豊かな育ちを支援する」という使命(ミッション)に，責任と覚悟をもって，これからも進んでいってほしいと思っています。

第 50 回記念島事研大会開催にあたって

昭和 57(1982)～平成元(1989)年度　会長　石倉　始

2020 年の「東京オリンピック・パラリンピック大会」開催を目前に控えた本年，島根県公立小中学校事務研究大会が記念すべき 50 回を迎えられることを OB の一人として大変嬉しく思います。第 50 回記念大会と聞き，私たちが当時行っていた県事研活動や各研究大会開催に携わってくれた多くの仲間の顔を懐かしく思い出すことができます。今日まで島事研大会を推進し，支えてこられた歴代の会長をはじめ，役員並びに多くの会員の皆さんに心から敬意を表したいと思います。

私は退職して 10 年ですが，同市内等で学校事務職員として実務・研究・研修活動に切磋琢磨した仲間たちと定期的に開かれる交流会で楽しい時間を共有しています。また，20 数年前に東京で２週間受講した中央研修のグループメンバー９名で，年１回配偶者も交え全国持ち回りでの懇親会を今も開催し旧交を温めています。こうした「人々との縁」は日常の学校事務以外の市町村・管内・島事研活動や，さらには平成６年(1994)年８月松江市で第 26 回全国公立小中学校事務職員研究大会を開催・運営し，巡り会えた県内外の仲間の存在が大きいと言えます。

日常の仕事は勿論大切ですが，外に一歩踏み出した各活動での役員として新しい出会いの場での有形無形の財産を得ていただきたいと思います。

今後，更なる研究会・研究大会の充実と発展をお祈りします。

第 50 回記念島事研大会に寄せて

平成 2(1990)～平成 21(2009)年度　会長　立脇　渉

第５０回の記念大会おめでとうございます。２０回，３０回，４０回と節目の大会に関わってきた私としては，感慨深いものがあります。

退職してから５年になります。地域では，『退職したかね。若いね。』と言われながらいろいろな場面で引っ張り込まれています。

現役時代を知らない方にとっては，『そーで，立脇さんは何しちょったかね。』『学校に居ました。』『先生かね。』『否，小・中学校で事務の仕事をしていました。』こんな会話を交わしながら話が広がっていきますが，事務職員をどう理解されているのか不明ですね。

しかし，学校教育法において，「事務職員は事務に従事する」から「事務をつかさどる」に改正されたことは，今後の事務職員にとって可能性が広がったことだと思います。現職時代には，思いはありましたがなかなか高い壁でしたね。

島根県においても管理職への職種が広がっていきました。事務職員も挑戦されていると思いますが，状況はいかがでしょうか。そして，共同実施，事務グループ，事務リーダーと以後の事務職員のあり方に影響のあったポイントだと感じています。問題は，こうした変化の中で事務職員自身の意識がついて行けていたのか思い起こしているところです。

学校における働き方改革が進められています。これまで事務職員の職務だと考えていたことが変化しつつあるように思います。校務のアウトソーシングが進んでいくのではないでしょうか。事務職員の専門性，核になるものの確立が望まれます。

カ　ン　テ　ラ　の　灯

平成 22(2010)～平成 23(2011)年度　会長　林　由里

５０年前先輩諸氏の苦労の末設立された島根県公立小中学校事務職員研究会。その後，島事研の会員は３０年以上メンバーがほとんど変わることがなかった。そのため各会合への参加者は減り，研究活動も低調となり活発な議論も減っていった。

１０年前役員になった私は，会員の多くが必要ないと思うなら島事研をやめてもいいのではないかと思った。給料をもらいながら貴重な勤務時間を割いて集まるのである。そんな根本のところから役員全員で話し合いを行い，各地の会員にも意見をきいた。すると，意外にも必要ないと思う人はほとんどなく皆存続を希望していた。

① 雇用者である島根県教育委員会との唯一の話し合いの窓口である。

② 学校事務職員として働く上での指標を指し示してくれる存在である。

③ 雇用者を同じくする県内の学校事務職員の交流の場である。

存続希望の理由は主に上記の ３ つであった。会に参加しなくても意見を言うことがなくても皆，働く上での心の支えとしていたのである。

それなら島事研は存続すべきであるし，会員が島事研に希望すること，他の研究会ではなく島事研にしかできないことを活動の中心にしていくべきであると考え，島事研の活動をそのような方向に整理していった。

さてあれから 10 年，今の島根県の公立小中学校の事務職員はどうだろうか。島事研をあたり前に存在するけど無くなると困る存在だと思うだろうか。

私は島事研は県内学校事務職員の行く手を照らすカンテラの灯であってほしいと願っている。

百　日　紅　の　頃　に　想　う

平成 24(2012)～平成 27(2015)年度　会長　鎌田　陽子

今年の夏も，庭の百日紅が可憐な花を咲かせました。この百日紅は，島事研３０周年記念大会に，同期採用だったＫさんが，会員に配られたものだと記憶しています。（覚えは弱いのに思い込みが強いたちなので記憶違いかもしれない・・・）百日紅の花が咲くと彼を偲びます。

Ｋさんは，いつも問題意識が高く，社会情勢の変革についていけない学校事情を憂いていました。早くから，学校事務の理想として，学校機能の向上と子どもたちの学習権の保障と地域との連携啓発をめざしていました。そして，採用当初から学校事務職員の可能性を説き，行政関係者・教員・学校事務職員の連携を訴え，自ら実践する人でした。

私たちの採用から４０年以上たち，近年やっと学校教育の向上に，学校事務職員という職の存在がおおいに重要であることが認められてきました。島事研は，発足から２０年以上にわたって「学校事務職員のあるべき姿」を考え「学校事務の確立」をめざし，学校事務職員の職務内容の明確化を進める取組を続け，その取組により職務の確立が進みました。さらにその後は，「教育を推進する学校事務」「教育課程づくりへの参画」「学びの質の向上につながる学校事務」という大会テーマにも表れるように，５０年という歳月のなかで，多くの学校事務職員の英知と努力や挑戦の積み重ねが，学校教育の中核を担う学校事務職員をつくりあげつつあると思います。

Ｋさん！今やっと，あなたが思い描いた理想の学校事務に近づいたのかもしれません。これまで以上に社会情勢の変化は激しいでしょうが，これからも学校事務職員は日々研鑽しながら前に進んでいくと思います。来年も再来年も百日紅の頃に，あなたを偲ぶとともに島事研のこと学校事務職員のことにも想いを馳せることでしょう。〈百日紅情報をお寄せください。･･･記憶違いでも偲び続けますけど。〉

学び合いと発見の場

出雲市立河南中学校　　光谷　和也

「次世代の学校事務職員」　最近，こんなフレーズを色々なところでよく聞くようになってきました。今のままでは，自分たちの仕事がＡＩに取って代わられる可能性が高い，だから私たちは「次世代」になるべきだとされています。

現代のマウスイヤーと称されるほど驚異的な技術進歩の速度に対応するためには，これまでの経験から得た深い知識だけではなく，今までの「あたりまえ」にとらわれない柔軟な発想も求められます。これからの学校事務職員を考えていくうえでは，必ずしもベテラン層の経験から若年層が学ぶということだけでなく，若年層の発想からベテラン層が学ぶ事も必要です。また逆に，若年層が経験を語り，ベテラン層が新たな発想を出すというのもおもしろいと思います。そして，若年層とベテラン層が相互に学びあい，意見を出し合うことによって新たな発想が生まれる，これが私たちの研究活動ではないかなと思っています。

時代や社会情勢に応じて働き方を変えていくことはあたりまえであって，それらに取り残されたような働き方をしている職が無くなるのは必然です。そして，変わりゆく時代などに対し研究しつづけ，新たな働き方を創造してきた結果が，今の学校事務職員であると思います。島根県の学校事務職員全員が学び合い，自分たちの新たな可能性を見いだす，島事研が今後もそういう場であることを願います。

奥出雲町立阿井小学校　　加藤　光太郎

第５０回という記念すべき大会に参加させていただくことができうれしく思います。

島事研の研究大会は我々若年層にとって成長を感じることができる場だと思います。それは,他地域の発表を聞くことで,その地域での研究内容が業務改善であれ,事務職員の在り方であれ,そこに向かわれる事務職員の姿を見ることができるからです。自分自身の今の場所での役割を再確認しなくてはいけないと感じさせられます。また,実際に研究発表を行うまでには,先輩方の学校での仕事の効果的な方法や,子どもたちへの学校事務職員としての思いをひしひしと感じることができました。

朧気としていた事務職員像に一つの指針をみつけることができ,自分の中でとても大きな財産になりました。私の成長を促していただいた場として,島事研にはとても感謝しています。

今後も人材育成の場として,研究大会等の開催に期待しています。

浜田市立旭中学校　片岡　恵美

第 49 回島根県公立小中学校事務研究大会益田大会へ参加させていただきました。

横浜市立日枝小学校住田校長先生による講演“持続可能な学校づくり”からは,行動を起こすきっかけを与えてもらいました。講演を拝聴したあと,私が事務職員として働きやすい職場を作るにはどういった働きかけができるのだろうという問いが頭の中をぐるぐると回っていました。学校に戻り,自分なりに計画を立て実践してみたことの中で,教職員から好評をいただいたものもあったり,私だけでは気づけないようなアイデアや協力をいただいたりすることもできました。

周りが変わることを望むような受け身の姿勢ではなく,自分自身が変わる,周りを巻き込んで変えていく意識で仕事に取り組んでいきたいと感じました。

みなさまの柔軟な対応に日々感謝

雲南市立掛合小学校　遠藤　大輝

子どもの頃,なりたい職業が多くありました。しかし,その中に『学校事務職員』はありませんでした。実際,試験を受けるときはおろか就職してからしばらくの間,何をする仕事かピンときていませんでした。そんな始まり方でしたが,これまで続けることができ,これからも働きたいと思えることは幸せだと思います。

さて,この職に就いてから思い続けていることがあります。それは,“教員は忙しい”です。時間外手当が出ないのに遅くまで残り,土日も部活動指導をする。そのような姿を見て「教員にならなくてよかった」と思いました。

ある日,妹が教員を目指しました。心の中で,「多忙で大変な仕事だから」と反対していました。最終的に,教育実習まで体験した妹は他の進路を選び,そのことに僕は安堵しました。

僕は,身内に勧められない職業の人と働いていることに気付きました。学校現場が多忙化するにつれ,優秀な人は離れます。それは子どもにとって痛手です。僕は,教員やこの先の学校のために何ができるか。それを考え仕事をするようになりました。

数十年後,学校事務職員は今と同じ職務内容ではないと思います。それでも,そのときの人たちが他人に勧められる学校事務職員,そして学校現場であって欲しいと思います。

原稿依頼の下話がきた段階で,お題が『自由』でしたのでこの文章を作成しました。しかし正式な依頼のお題は『島事研に求めるもの』でした。本来ならば作り直すべきですが,このまま記念号に載せていただく柔軟な対応を島事研に求めます。

邑南町立瑞穂小学校　　畑岡　宏明

学校事務職員に採用されてからあっという間に４年が経ち,今年度で５年目になりました。採用されたころは何もわからず,不安ばかりで,とにかく与えられた仕事をこなすことだけで精一杯でした。

恥ずかしながら,やっと最近になって自分で考えて仕事ができるようになってきた気がします。これまでたくさんのことを教えていただいた先輩方には本当に感謝しています。

初めて島事研大会に参加させていただいたのは,第４５回大会です。初めて参加したときは,島根県内の事務職員と楽しく話ができたことが,とても印象に残っています。普段は,なかなか会えない同期や同じ悩みを持った先輩事務職員の方々と,日常の業務について悩み相談など話ができることがとてもうれしかったことを今でも覚えています。これも島事研大会ならではだと思います。

学校事務職員はほとんどが一人配置という環境で,自分以外の学校事務職員の方に普段の業務で分からないことや,実践されていること,考えていることを聞ける場は,まだまだ数少ないのですが,その中でも島事研大会は,事務職員として自分に何ができるか何をすれば良いかをいろいろな事務職員の方々とともに,考えるとても貴重な時間だと感じています。一人では分からないことも,みんなで考えることで,より実践的で良いものになり,各学校へ持ち帰ることができます。このようなことを今後も続けていけば,島根県の事務職員の資質向上につながるのではないかと思っています。

まだまだ,若手職員ですが徐々に後輩もできてきました。島事研大会などの場では,経験年数が少なくてもしっかりした考えを持って話される方がたくさんおられます。私もこれからもっと頑張らなければいけないと思っています。

最後に,今回このような機会をいただき大変感謝しております。まだまだ未熟者ですが,皆さんのお力も借りながら日々成長していきたいと思いますので,これからもどうぞよろしくお願いします。

今後も人材育成の場として,研究大会等の開催に期待しています。

安来市立赤江小学校　　村田　淳一

小学校 1 年生の時に私が書いた作文を読み返してみると，将来の夢は「お笑い芸人」でした。なぜそんなことを書いたのかは覚えていませんが，現在私は学校事務職員をしています。

正直に申しあげますと，最初はほんの少しの好奇心くらいで学校事務職員の募集要項を手にしました。これを読んでおられる多くの学校事務職員の方も，きっと子どものころの将来の夢は今とは異なる職業なのではないでしょうか。

島事研大会をはじめ，セミナー，全事研大会など多くの研修・研究大会に参加させていただきました。そこで共通して感じたことは，「変わりたい」「もっと学校をよくしたい」という熱量でした。

ほんの少しの好奇心で学校事務職員という職についた私ですが，諸先輩方や周りの学校事務職員のそういった熱を受け，段々と意識が変わってきているように思います。

近い将来，私もそういった熱を周りに伝えることができる学校事務職員になりたいです。

松江市立恵曇小学校　大﨑　優

学校事務職員として働き始めて５年目になりました。

新採の頃は目の前の業務をただこなすだけで精一杯でしたが,今は学校全体に目を向けるように心がけ,少しずつ業務改善についても実践できるようになってきました。

島事研セミナーに参加する中で，他市の学校事務職員の方々と業務改善について話し合う機会がありました。同じ県内でも他市では文書管理や財務の仕方が違うことを知り,自分のいる市のやり方が全てではないと世界が広がったような感覚になりました。また,自分と同世代の人達が自分と同じような悩みを持っていることが分かり,ほっとしたこともありました。

島事研大会やセミナーに参加することで,普段学校にいるだけでは気が付かないことを知ることができ,自分が抱えている課題を整理することにも繋がっています。そのような学びの場をいただいていることに感謝しながら，そこで知り得たことを生かして，今後，課題の解決に努めていきたいと思います。

益田市立中西小学校　佐藤　郁恵

採用は浜田管内の小学校で,浜田管内の方には大変お世話になりました。その後,益田管内の学校に異動しました。島事研大会やセミナーに参加すると,以前お世話になった方や県内の同世代の方に出会えます。管内が違うと会う機会がないため,大会などで会えたときには,それぞれの近況報告などを話すこと,そんな時間も楽しみに参加しています。

今年の異動で初めて益田市勤務となり,何年事務職員をしていても市町村が違うと様々なシステムが異なり不安がありました。同じ事務グループの方には,システムの使い方や事前に提出物のスケジュールややり方など日常的に声をかけていただき助かり,困ったときにすぐに聞ける相手の存在を強く感じました。

事務グループの活動については市町村やグループによってさまざまで異なりますが,どの事務職員にとっても大切な活動になるように,島事研大会で県内の事務職員の実践交流をこれからも聞けることを期待しています。

島事研へ求めるもの

江津市立郷田小学校　　佐々木　悌

採用２年目の私には,「従事する」から「つかさどる」への法改正は,実態としてどんな変化があったのかは定かではありません。少なくとも,昨年を振り返ると「従事する」ことに精一杯の１年でした。ただし,研修を通じて求められる役割が大きくなり,各学校の課題にも向き合う必要性があることは理解しているつもりです。

しかし,各学校の課題は規模や地域性に応じて様々であり,学校に配置される事務職員の経験にも幅があります。私自身,昨年に比べて学校の見え方は違いますが,主事と事務リーダーでは,そもそも学校の見え方が違うと思います。同じ課題に対する解決手段（引き出しの数）も違うかもしれません。

だからこそ,島事研の皆様には若手の資質向上を促すとともに,ベテランの方にとっても若手から新たな発見が得られるような研修会の企画を通じて,各々が現場で「事務をつかさどる」ために尽力して頂きたいです。

吉賀町立吉賀中学校　　岩本　真美

平成20年度に採用されて,今年で12年目となりました。採用されたころは初めての仕事に初めての職場で慣れないことも多く,分からないことがあるといつも周りの先輩事務職員の方々に助けていただきながら仕事を進めていました。

初めて参加した島事研の研究大会では,久しぶりに会う同期の学校事務職員や初めて会う他管の学校事務職員の方々などたくさんの出会いがあり,また研修の中でも意見交換をしたり他市町村や他校の様子など聞くことができたりして,とても勉強になりました。

そして研修後には「明日からまた頑張ろう,学校に戻ってから早速参考にしてみよう！」と前向きな気持ちになって帰ったことをよく覚えています。

私にとっての島事研の研究大会は,日頃学校の中では一人の“学校事務職員”ですが,足を運び同じ学校事務職員の方々と共に研修会に参加することで,改めて自分の仕事や取組について考えることができたり,意見交換をすることで新たな気付きを得られたりできる貴重な場であると感じています。

大田市立温泉津小学校　河野　詩織

昨年度の第 49 回島事研大会では,講演で横浜市立日枝小学校の住田校長先生のお話を聞きました。事務職員としてどう教員と接し,学校運営に関わっていけばよいのかというヒントをもらったように感じ,自分の働き方について改めて見つめなおすきっかけとなりました。

教職員の働き方を ESD の視点で変革して,教員自身が持続可能な働き方をすることで持続可能な教育になるという言葉が特に印象に残りました。ESD と働き方改革は非常に密接な関係にあることが分かり,これからの未来を創っていくために私たちがまず自分自身の働き方をデザインしていくことが大切だと感じました。そして働き方改革をするうえで,今まで当たり前だったこと,前例を踏襲していることなどをただ多数決でやるかやらないかを決めていくのではなく,そのことが何のため誰のためになっているのかということは根本に置いて考えなければならないと思いました。

働きやすい職場,生き生きと働ける環境にするために,事務職員として自分にできることを少しずつ取り組んでいきたいと思っています。

隠岐の島町立有木小学校　早川　弘美

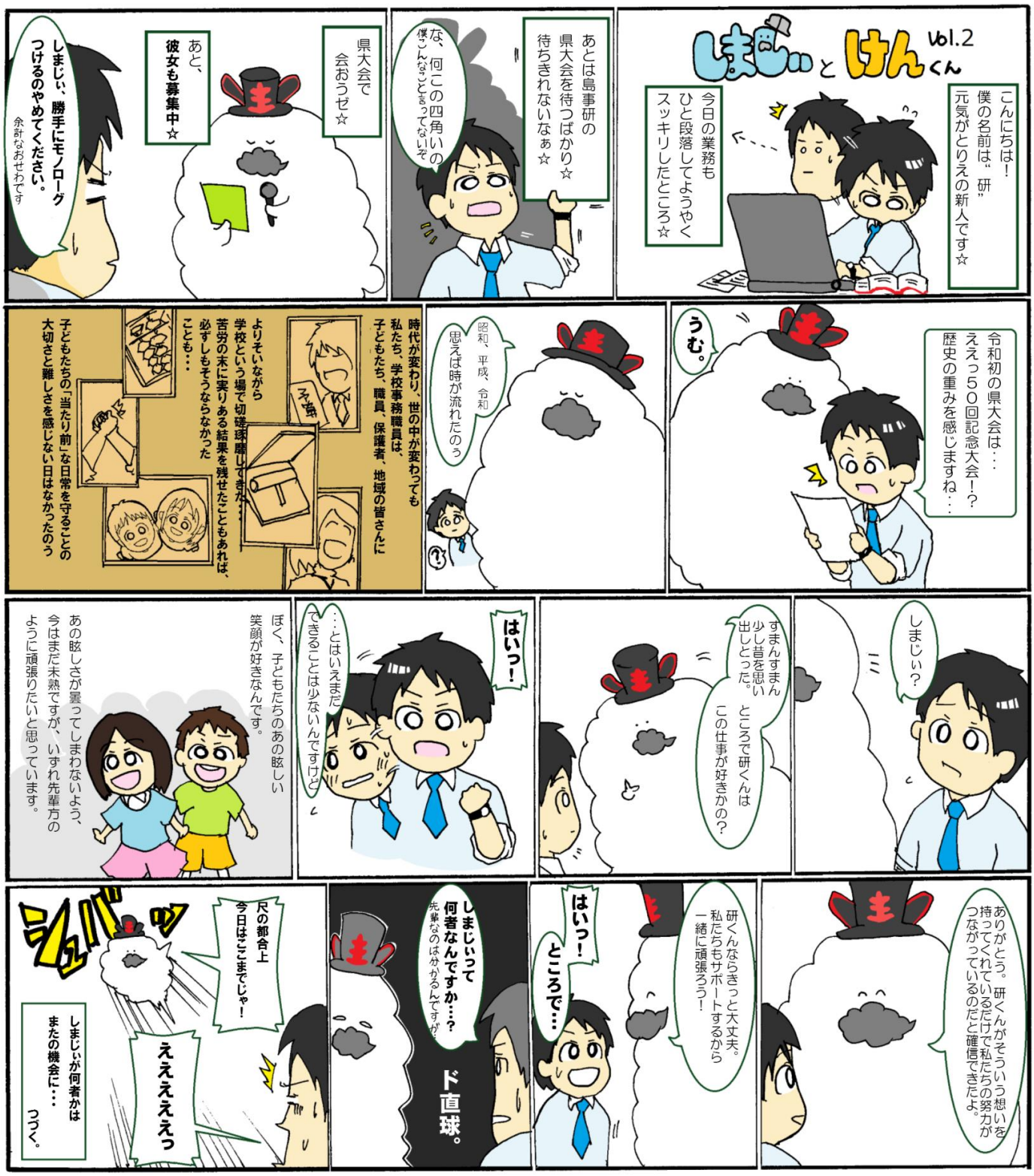
研究大会に参加すると,私は元気をもらって帰ります。他の事務職員の考えや取組から学ぶことがとても多いからです。

時には,自分の不甲斐なさを感じ落ち込むこともありますが,大勢の参加者と時間を共有することで,『仲間がたくさんいる』と勇気づけられます。

この夏,全国公立小中学校事務研究大会岡山大会に参加しました。久しぶりの研究大会への参加でしたが,「つかさどる」事務職員とは？求められる役割は何か？についてじっくりと考える時間になりました。また,変化する時代に対応できる資質・能力を身に付けるため,学び続けなければならないと感じました。そして全国の約 2,300 人の仲間から元気をもらいました。

勤務校では大規模改修工事が始まりました。この事業に事務職員としてどのような関わりができるのか，楽しみにしています。

来春には生まれ変わるこの学校と一緒に,私も意識を変え,学び続け,事務職員として少しずつ生まれ変わっていきたいと思っています。



作・画：佐伯圭一　監修：情報部

編集後記

私が採用された頃は事務職員の研修の場が少なく、他の人がどのように仕事をしているのかを知りたくて島事研大会に参加していました。今でも島事研大会は、各地域の取組の様子等を直接聴くことができる貴重な機会だと思っています。これまで何回目の大会かということを意識せず参加してきましたが、第 50 回大会と聞くと感慨深いものがあります。私たちの先輩方が築いてこられたものを、次の世代へと引き継いでいかなくてはいけませんね。T.M